

令和7年産酒造好適米 参考情報

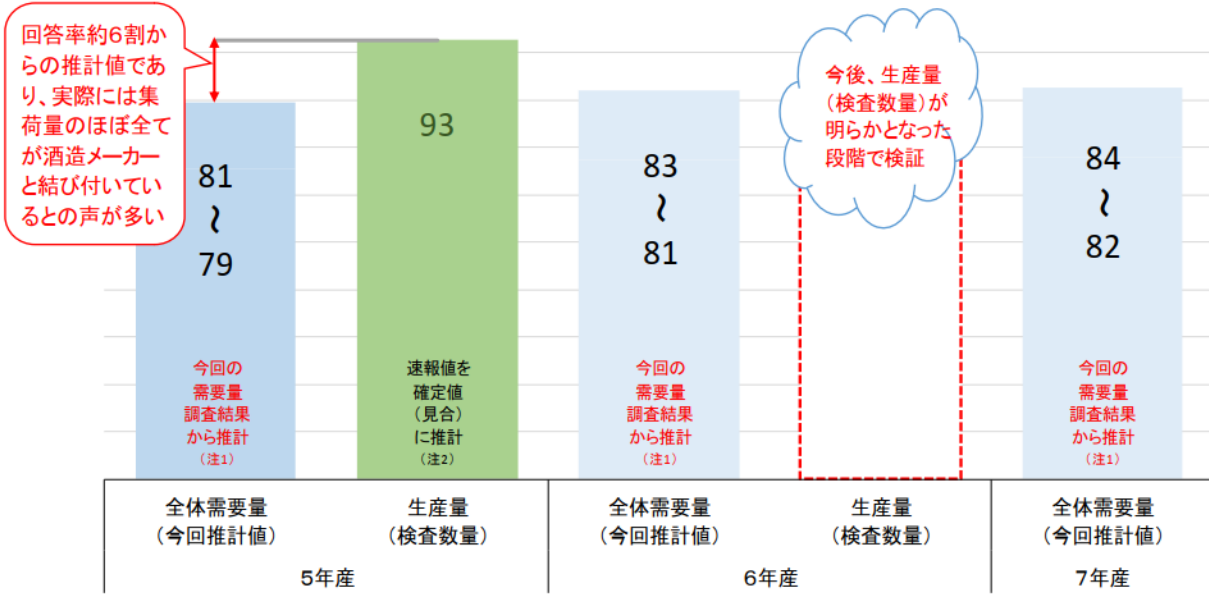
兵庫県農業活性化協議会作成

1 全国の酒造好適米の需給見通し(日本酒をめぐる状況(令和6年9月)より)

- 令和6年7月に実施した需要量調査によると、令和6年産の全体需要量(推計値)は81~83千トン程度、令和7年産の全体需要量(推計値)は82~84千トン程度と見込まれる。
- 令和7年産については、各産地において、今後、全体需要量変動する可能性があることに留意するとともに、令和6年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要。

(単位:千トン)

酒造好適米(醸造用玄米)の全体需給の状況

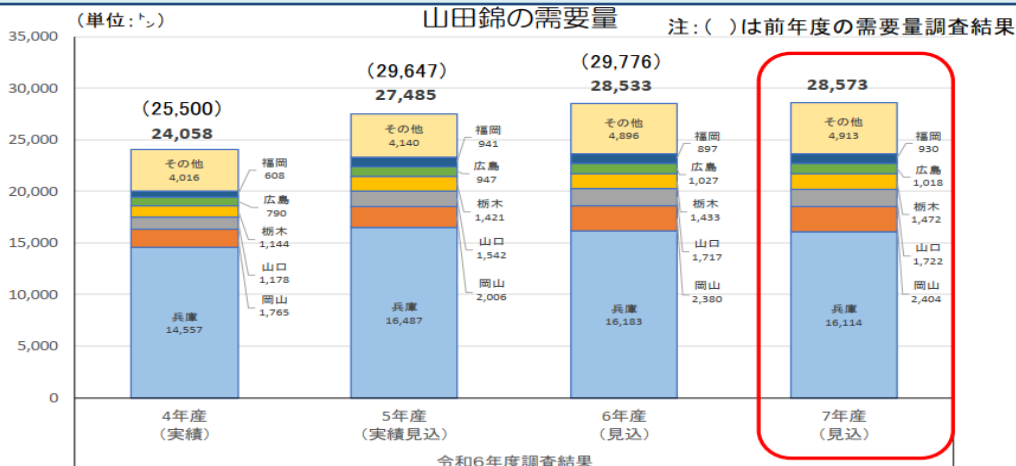


注1: 各年産の全体需要量(今回推計値)は、今回の需要量調査の数量ベース回答率が、令和4年産酒造好適米の全体需要量(73~74千トン)と今回調査の令和4年産の需要量(約60千トン)から約81~83%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2: 生産量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、令和5年産は、令和6年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計。

2 産地別の需要量調査結果(日本酒をめぐる状況(令和6年9月)より)

- 令和7年産の兵庫県産山田錦の兵庫県産酒造好適米の需要量(見込)は、前年と同程度(16,114トン)となっている。



【参考】山田錦の生産量(検査数量)
4年産 28,168 5年産(推計値) 34,794

【その他参考情報】

○ 令和5年産酒造好適米の生産状況(日本酒をめぐる状況(令和6年9月)より)

- 令和5年産酒造好適米の生産量は、約9.3万トンとなっており、このうち、兵庫、新潟、岡山、秋田、長野の5県で約6割を占めている。
- 酒造好適米の中でも、特に「山田錦」は全国の酒造メーカーからのニーズが多く、兵庫県は全生産量の約60%を占めている。

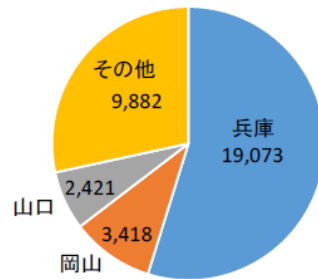
酒造好適米の産地別生産量の推移

(単位:トン)

	令和元年産	2年産	3年産	4年産	5年産	シェア
全国計	96,454	85,179	74,756	79,472	92,599	100%
兵庫	25,766	22,338	20,940	22,202	26,432	29%
新潟	12,000	11,223	8,855	10,409	11,069	12%
岡山	5,704	4,029	4,620	5,044	6,443	7%
長野	5,962	4,982	3,539	3,423	4,564	5%
秋田	5,010	4,613	3,964	3,667	3,927	4%
その他	42,012	37,995	32,838	34,727	40,164	43%

令和5年産酒造好適米の主要銘柄の生産状況

【山田錦】



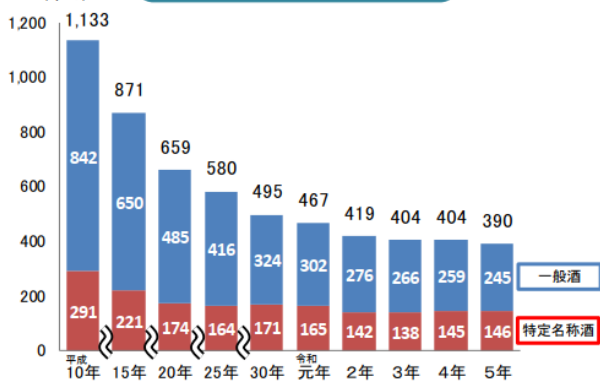
(単位:トン)

	5年産	シェア
兵庫	19,073	55%
岡山	3,418	10%
山口	2,421	7%
その他	9,882	28%

○ 日本酒の出荷状況(日本酒をめぐる状況(令和6年9月)より)

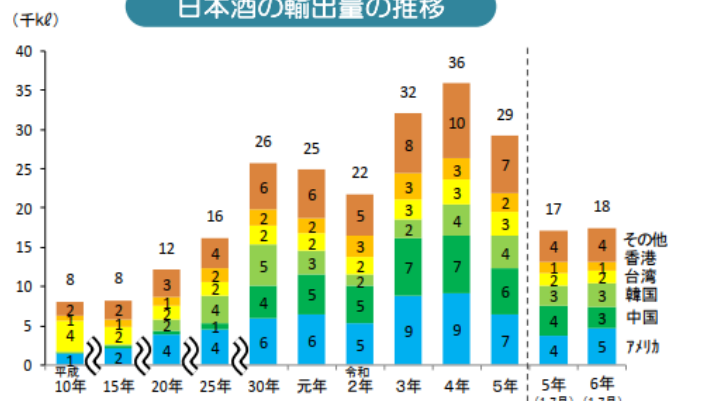
- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じた。
- 令和6年(1-7月)においては、特定名称酒が対前年同期比▲1%、一般酒が対前年同期比▲4%と減少しており、日本酒全体としても、対前年同期比▲3%と減少。
- 輸出については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移。令和5年における日本酒の輸出先国は75か国で、このうち、アメリカ、中国、韓国、台湾、香港の5か国・地域で数量及び金額の7割以上を占めている。

日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和5年12月分の石川県のデータが一部未集計となっている。

日本酒の輸出量の推移



資料：「貿易統計」(財務省)

◇ 兵庫県農業活性化協議会では、令和7年産酒造好適米の作付判断の参考としていただけるよう、国の需要量調査の結果等を基に、参考情報を提供しております。

なお、酒造好適米の生産については、酒造メーカーとの全量契約栽培が基本となりますので、地域の関係者や生産者の皆様には、これらの情勢を注視しながら、最寄りのJAや集荷業者等に早めに需要の動向を御確認いただき、売り先・行き先を確保したうえで取り組んでいただきますようお願いいたします。